

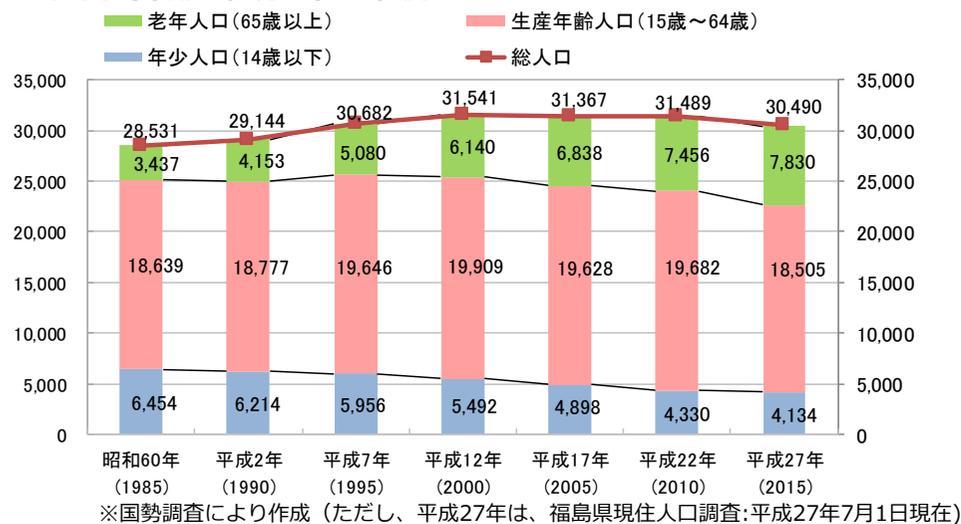


まち・ひと・しごと創生 本宮市人口ビジョン(概要版)

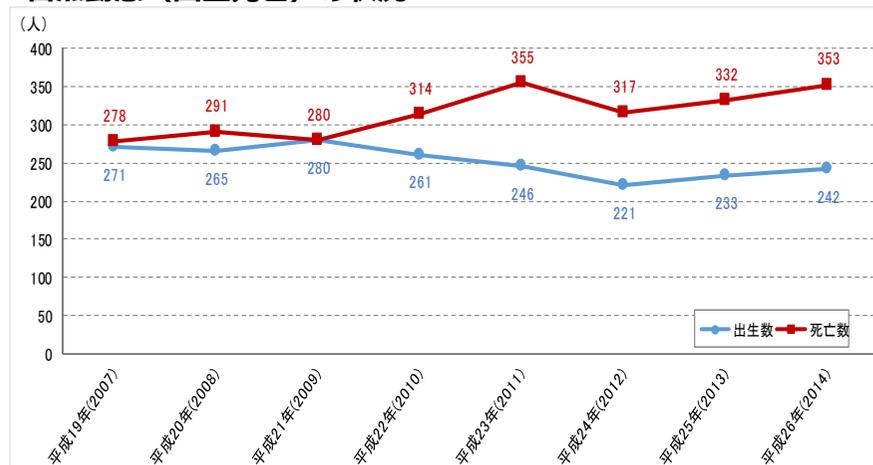
人口の動向分析

- 東日本大震災及び原発事故が大きく影響し、人口は平成22(2010)年から減少傾向に転じています。
- 年少人口が減少する一方で老年人口は増加しており、少子高齢化が年々進行しています。
- 震災直後に急激な転出超過がみられましたが、近年では歯止めがかかっています。
- 近年合計特殊出生率・出生数が上昇・増加しましたが、その一方で死亡数も増加しているため、自然減が続いている状況にあります。

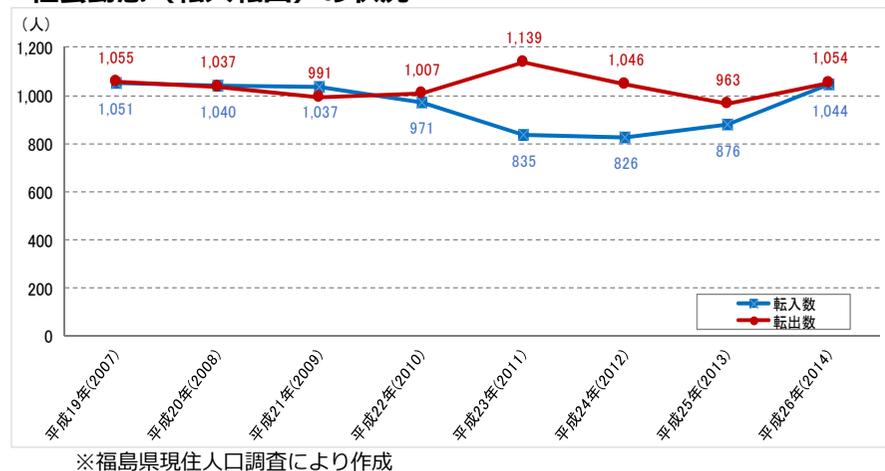
人口(年齢3区分別)の状況



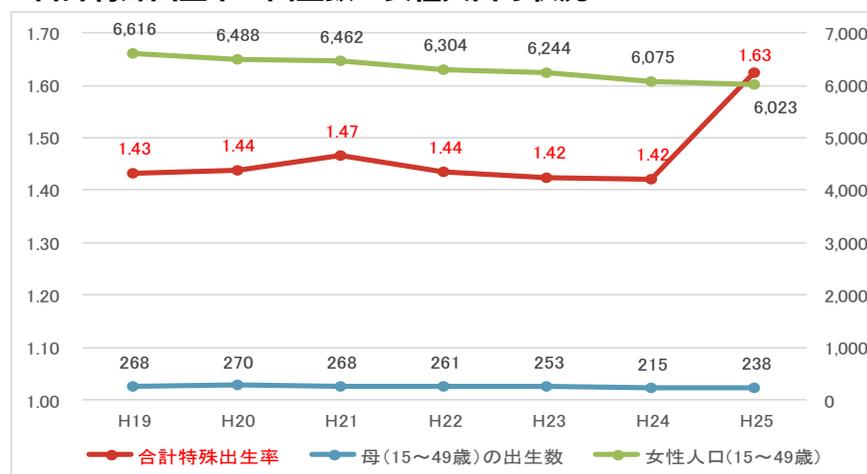
自然動態(出生死亡)の状況



社会動態(転入転出)の状況



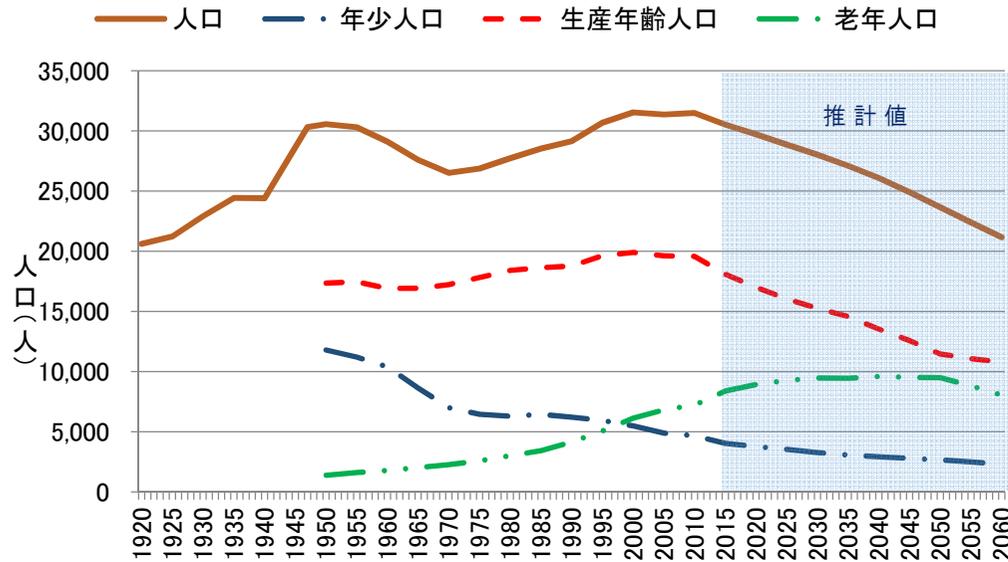
合計特殊出生率・出生数・女性人口の状況



※合計特殊出生率は、厚生労働省人口動態調査の母の年齢別出生数及び福島県の現住人口調査の年齢別女性人口の数値を用いて市が独自算出

将来人口の推計と分析

将来人口推計



●平成22（2010）年まではほぼ横ばいで推移していましたが、平成23（2011）年の東日本大震災及び原発事故を機に減少傾向に転じました。その後、平成25（2013）年からは回復基調にありますが、東日本大震災及び原発事故後の2カ年の人口減少が影響するとともに、さらには全国的に進行する少子高齢化も相まって、減少傾向が断続的に続き、2010年で31,489人の人口が、45年後の2060年には21,164人に減少するものと見通しています。

●年齢構成については、2010年での年少人口4,674人、生産年齢人口19,582人、老年人口7,232人であるものが、2060年にはそれぞれ年少人口2,317人、生産年齢人口10,798人、老年人口8,049人になり、少子高齢化がさらに加速していくものとみられます。

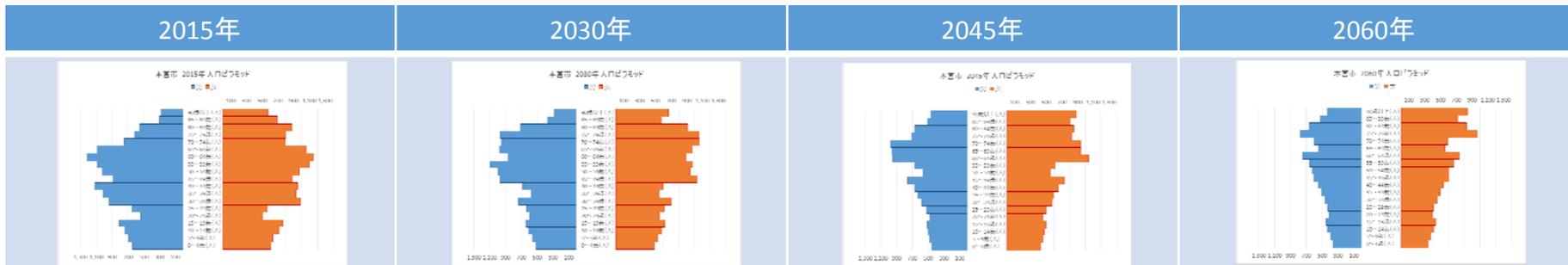
(人)

人口区分	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総人口	31,489	30,529	29,723	28,869	28,026	27,103	26,079	24,905	23,653	22,394	21,164
年少人口	4,674	4,043	3,784	3,544	3,283	3,075	2,930	2,800	2,673	2,499	2,317
生産人口	19,582	18,096	17,015	16,054	15,261	14,575	13,542	12,574	11,470	11,074	10,798
老年人口	7,232	8,390	8,925	9,271	9,483	9,453	9,607	9,532	9,510	8,821	8,049

※1920年～2010年については、国勢調査の実施結果による。

※2010年から2015年は震災による影響を勘案し、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計を準拠して独自に推計。

将来人口推計における人口ピラミッド



目指すべき将来の方向

(1) 高いポテンシャルを活かした定住・移住の促進

「住むまち」としての高いポテンシャルを最大限に活かし、さらなる住みよいまちづくりと情報の発信を行いながら、定住・移住を促進し、社会動態人口の増加を図ります。

(2) 市民のライフステージを意識した希望の実現

若い世代の仕事・結婚・出産・子育ての希望に応え出生率の向上を目指すとともに、さらに、全ての世代の希望が実現し笑顔で健康やかに暮らせるよう健康長寿のまちづくりを進め、自然動態人口の増加を図ります。

(3) 賑わいのある持続可能な「ひと」と「地域」の創造

福島県のほぼ中央に位置し、交通アクセスに優れ、人や物、文化・情報等の交流の要衝となっている地の利を活かし、好循環の仕組みづくりを行いながら、持続可能な「人」と「地域」の創造を図ります。

本宮市の人口の将来展望

社会動態と自然動態からなる4つのシミュレーションとその組合せによる4通りのパターンを想定します。

その中で、最も高位であるパターン1（社会動態（高）+自然動態（高））の人口24,537人（2060年）を視野に入れつつ、地域や時代のニーズ等に応じた社会・自然増加策を講じ、さらなる上昇を目指していきます。

● **社会動態（高）** = 2015年から2020年の集中期間の純移動数を5年間1,300人程度（うち、年少及び生産年齢1,100人程度）増加すると見込み、その後は5年間で200人程度増加の純移動数で推移するものと想定

● **自然動態（高）** = 現在の合計特殊出生率1.63を維持し、2020年には1.70程度、2030年には国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョンにおける国民希望出生率である1.80、2040年には人口置換水準（長期的に人口が増加も減少もしない出生水準）である2.07に達するものと想定

